

青島ごとさくらねこTNRプロジェクト 事後報告



主 催 : 公益財団法人どうぶつ基金

協力団体 : 青島猫を支援する会
: 愛媛県大洲市
大洲の環境をよくする連絡協議会

手術後調査実施日 : 2019年4月4日

青島一斉TNR概要

2018年10月2～3日に行われた「青島ごとさくらねこTNRプロジェクト」は、台風の影響もあり当初の予定を大幅に変更して1泊で、2人のどうぶつ基金獣医師と1名のボランティア獣医師、ボランティア、どうぶつ基金スタッフにより執り行われた。

処置日	手術実施:172		手術実施なし:39		合計
	オス	メス	ワクチン レボリューション(ノミよけ)	手術不可	
10月3日	97	75	38	1	211

※うち数匹が捕獲できずに未手術

※手術実施なしの38匹はすでに手術済み、手術不可の1匹は子猫のため未手術



青島一斉TNR事後調査

実施日：2019年4月4日

目的：2018年10月に行った一斉TNR半年後の手術済猫の健康状態と生活環境を調査し、実施前と後での変化を観察する。

また、現地ボランティアの方と協力し、**未手術猫を捕獲し、全頭手術済にすることを目的**にしている。



猫の状態

- 毛艶がよくなっていた。
- 体格がよくなっていた。（一部痩せている猫は高齢ということ。）

十分な食事が給餌されていた。

全体に状態は安定しているように見受けられた。老齢の猫はやせている個体もいたが、食欲もあり、給餌の時間になると周囲から猫が集まり、以前と食事の様子は変わらないが、フードを取り合っけんかすることもなく、すべての猫が落ち着いて食事ができていると確認できた。



ケガをしている猫がほとんどいなかった。

オス同士のけんか、メスを挑発するなどの行為もなく、個々が好きな場所で穏やかに生活している様子が伝わってきた。

猫の生活

不妊手術をしたことによって、以下の改善が確認できた。

- 猫の性格が穏やかになり、メスを追い掛け回す行為やオス同士の縄張り争いほぼ見られなくなった。
- もちろん子猫は生まれていない。
- 毎年冬の時期は数頭が冬の寒さや病気で死亡するとのことだったが、今期は一頭も死亡することなく越冬をした。
- オス猫独特の**尿臭が皆無**と言っていいほどにしなかった。
- 糞も落ちておらず、衛生面でも**適正な管理**がされていた。

これは、十分な食事が給餌され、繁殖ストレスや縄張り争いのストレスなどが軽減されたことも関係していると考えられる。



寒さをしのげるよう、手製のキャットハウス（発泡スチロール製）も用意され、過ごしやすい環境が整えられていた。



猫の様子

船が着くと数頭の猫は観光客の後を追って餌場に移動し、おやつをねだるなど以前と変わらない光景があった。日が当たる場所でまどろみ、猫じゃらしで遊んでもらう姿に穏やかさが感じられた。



障害のある猫も、いじめられることなく他の猫と仲良く過ごしている。

猫密度は高い島だが、お互いにプライベートスペースは確保できているようで、居場所をめぐる争いも起きていない。



今回捕獲猫数

●2頭（オス）

※本土に連れていき、不妊手術、ノミ駆除、折れた歯の抜歯、歯石取りを行った。

一斉TNR後の猫の不妊手術数（青島猫を支援する会実施）

処置日	オス	メス	計
2018年10月9日	3	0	3
2018年10月31日	2	1	3
2019年1月30日	1	1	2
2019年4月4日	2	0	2
2019年4月11日	0	1	1
合計	8	3	11

一斉TNR後の猫の治療（青島猫を支援する会実施）

処置日	性別	名前	治療内容
2019年1月14日	メス	くーちゃん	眼病、風邪、脱水
2019年2月2日	オス	ボス	風邪
2019年2月2日	メス	なし	風邪
2019年4月4日	オス	なし	ノミ駆除、口内炎、折れた歯の抜歯、歯石取り

「青島猫を支援する会」の設立

青島の猫をサポートしていくために、2018年8月28日に設立された。

設立の経緯

今まで各ボランティアによって行われてきた青島猫の支援を引き続き行う。TNR(全頭一斉不妊去勢手術)後は、増えることのなくなった青島猫の終生養育のため、今後必要となる資金や支援物資の受け皿として活動する。TNRはやって終わりではなく、その後の長期ケアが大切と考えている。



主な活動内容

・SNS広報 ・TNR ・LIFULLソーシャルファンディングにて募金集め ・フード支援 ・猫の治療

フランス2（フランス国営放送）

今回、フランス国営放送であるフランス2の取材スタッフが3名来島した。

猫の島として一躍有名になった青島の現在の猫の状況と、島の過疎化、高齢化に焦点を当て、どうぶつ基金と島民がインタビューを受けた。

<取材内容>

- 青島の猫は不妊手術をしないとどんな状態になるか
- 今後無人島になったら猫はどうなるのか
- 日本には青島と同じような島はあるのか
- 猫は人がいないと生きていけないのか
- 不妊手術後の猫はどのように変わったか

この問題は日本だけの問題ではなく、フランスでも同様のことが起こっているという。



ねこワン（愛媛CATVたうんチャンネル・西瀬戸ネットワーク）

愛媛CATVたうんチャンネル・西瀬戸ネットワーク「ねこワン」にも、今回の事後調査についての取材を受けている。

<取材内容>

- 一斉TNRの後の猫はどんな様子だったか
- 青島の猫にどのような印象を持ったか
（初めて来島するどうぶつ基金スタッフに）
- 猫の健康状態はどうだったか





一斉手術をしてから、メス猫がオス猫に追われてご飯を食べられない状態もなくなり、けんかせずにみんなが落ち着いてご飯が食べられるようになった。

この季節は、毎年繁殖のシーズンで、オス猫がかみ殺した子猫の死骸を見るのが辛かったが、手術をしてからはもうそのような悲しい思いをすることがなくなってよかった。



一斉手術の成果

今回の事後調査で、不妊手術をした後の猫の状態が、以前より改善されていたことに成果を感じた。猫同士の争いがなくなり、適正飼育がなされ、本当の意味での猫の楽園に近づいたのではないだろうか。

外国メディアにも注目されている青島の取り組みが全世界に広がり、同じ問題で悩んでいる地域の解決策の一助になることを願っている。



今後の課題

青島は近い将来、高齢化、過疎化の影響を受け、無人島になることが予想される。無人島になった際に、残された猫はどうするのか。

現地ボランティアの「青島猫を支援する会」もその状態を予想し、クラウドファンディングなどで資金を集めながら、猫の保護も視野に入れて計画を立てている。

青島の猫対策が、全国の猫島のモデルケースになって、土地、風土、人に合った問題解決となることが望まれる。



公益財団法人どうぶつ基金

青島猫を支援する会

愛媛県大洲市

大洲の環境をよくする連絡協議会